

## 事故事例に学ぶ

14



### 黄色信号のため交差点で停止した先行車に追突

#### 事故の概要

##### 発生状況

日 時：平成13年9月某日 午後4時50分頃

天 候：晴

発生場所：川崎市川崎区の交差点

##### 道路状況

片側2車線の国道と、片側2車線の県道とが交わる信号機のある交差点

##### 事故の当事者

運転者A（4トントラック）：35歳男性

会社員B（普通乗用車）：26歳女性

##### 被害状況

A：物損...車輛前部中破

B：人身...頸椎捻挫（全治3週間）

物損...車輛後部大破

## 事故状況

Aは地元のトラック運送会社に10年間勤務し仕事の内容にも精通し、会社からも信頼されているベテランドライバーである。

その日の早朝、川崎市高津区の荷主先である食品工場から荷を積み込み、千葉県市原市内で納品を済ませ、帰り荷を積み、営業所に向った。

行きと同じ道を戻る途中、ドライブインで朝食を取り、「今日は朝が早かったので早く帰って休もう」と思い、少し眠気もあったが、休憩は取らずにそのまま運転を続けた。

都内を抜けて川崎市内に入ると、交通の流れもスムーズで、片側2車線の国道の歩道寄りを時速40キロで進行した。

事故現場となった交差点に差し掛かる1キロ程手前から、同じ車線の前方にはBが運転する乗用車が走っており、少し遅いと感じながらもそのまま追従していた。

交差点30メートル手前辺りで、前方の信号が青色から黄色に変わった。

そのときAは、先行しているBは当然通過するだろうと判断し、自分も続いて通過しようとアクセルを踏み加速した。ところがBは交差点直前で停止し、慌ててブレーキをかけたが間に合わずに追突してしまった。

#### 事故の原因

Aは交差点の手前で信号が黄色に変わっているのに、「先行車はこのまま行かろう」と誤った判断をしました。

Aは日頃から先行のBのような状況なら迷わず交差点に進入しており、先行車が次にどのような行動をとるかという判断基準を自分に置きかえ、「俺なら当然行く、だから前の車も行かろう」と自己中心的判断をしたことが事故となった原因です。

さらに、早朝からの仕事で少し眠気があったにもかかわらず、「早く帰社しよう」と思い休憩も十分に取らず運転を継続してしまったことが、心理的・身体的に影響を及ぼし、事故を招

いた要因の一つとなっています。

何と言っても平素からの「だろー運転」という安易な運転態度に問題があったわけです。

### 事故防止と安全指導

「いそぎ」、「あせり」の心理の解消

追突事故のなかでも事例のように、「信号の変わり目に追突」というケースは多発事故パターンの一つです。

そのほとんどが交差点の手前で信号が青色から黄色に変わったとき、「前車はそのまま交差点を通過するだろう」と判断しそのまま追従し、前車が急停止したため追突したというケースです。

このような事故の要因は、ドライバーの心理的な要素からくるもので、その一つに、「いそぎ」、「あせり」があります。

その心理は、時間に十分余裕があるにもかかわらず、前車の動きが遅く感じられることで、ことさらにスピードを出したり、追越しや車線変更を頻繁に行ったりするものです。

この心理状態に陥ると、前方の車の動きがすべて遅く思われてきて、そのことばかりに気を取られ、全体の交通の流れに対する配慮を失ってしまい、「だろー運転」につながります。

「あせっている」、「無理している」、「興奮している」などと気付いたら、まず気分転換をはかる必要があります。大きく深呼吸する、小休憩をとるなどして気持ちを落ち着かせ、平常心を保って運転することが大切です。

### 黄信号のジレンマゾーン

信号が黄色に変わったとき、そのときの速度と停止線までの距離の関係で、行くべきか止まるべきか迷うときがあり、その迷いが生まれる一帯をジレンマゾーンといいます。

このときの判断を誤ると、通過すると思った前車が急停止すれば追突しかねないし、一方、黄色信号を見て急ブレーキをかけると後続車に追突される危険があります。また、強引に通過

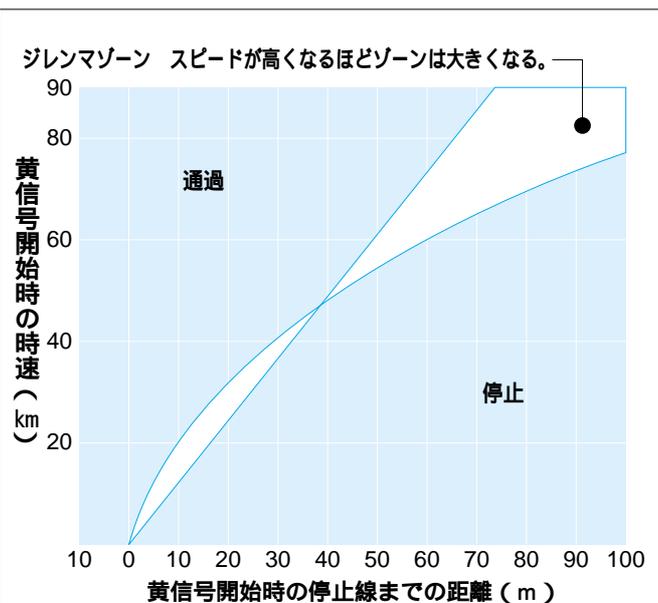
しようとする交差道路の車や、横断を始める歩行者や自転車と衝突する危険もあります。

そしてスピードが出ていれば出ているほど判断の迷いは大きくなり、ドライバーのストレスも大きくなります。

それは、スピードを出すことで、ジレンマゾーンが大きくなり、判断する時間も短くなり、誤りやすい可能性が高まるからです。

黄色信号になったときの危険度をできるだけ少なくするためには、交差点の手前でスピードを落とし、ジレンマゾーンをできるだけ小さくすることです。

そして交差点までの距離、スピード、停止距離、前後の車の動きなどから、交差点を通過するか停止するかを判断を行うことで、追突事故を防ぐことが大切です。



1. 停止線または交差点内で黄信号に変わった時は、ほとんど通過するのでジレンマを感じない。
2. 停止線までの距離が37メートル以上あるときに黄信号に変わった時は、速度が速いほど迷いが大きくなり、ジレンマゾーンが広がる。